平成２６年度

第１９回大分県教育委員会　会議録

日　時　平成２７年１月６日（火）
　　開会１３時３５分　　閉会１４時５７分

場　所　教育委員室

平成２６年度
第１９回大分県教育委員会

【議　事】

（１）議　案
第１号議案　大分県立芸術会館管理規則等の廃止について
第２号議案　大分県先哲叢書編さん審議会委員の委嘱等について
第３号議案　公立学校の管理職人事について

（２）報　告
①大分上野丘高校スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）の取組について

（３）協　議
①栄養教諭選考試験の実施について

（４）その他

【内　容】

1　出席者

委　員	委員長	松　田　順　子
	委員長職務代理者	首　藤　照　美
	委員	林　　浩　昭
	委員	岩　崎　哲　朗
	委員	高　橋　幹　雄
	教育長	野　中　信　孝
	欠席委員なし	
事務局	理事兼教育次長	河　野　盛　次
	教育次長	落　合　　弘
	教育次長	大　城　久　武
	教育改革・企画課長	佐　野　壽　則
	教育人事課長	藤　本　哲　弘
	教育財務課長	岡　田　　雄
	福利課長	大　石　尚　志
	義務教育課長	後　藤　榮　一
	生徒指導推進室長	江　藤　　義
	特別支援教育課長	後　藤　みゆき
	高校教育課長	髙　畑　一　郎
	社会教育課長	曽根﨑　　靖
	人権・同和教育課長	甲　斐　順　治
	文化課長	山　口　博　文
	体育保健課長	蓑　田　智　通
	大分上野丘高等学校教頭	渡　辺　智　久
	大分上野丘高等学校教諭	佐　藤　　孝
	教育改革・企画課主幹	勝　尾　裕　美
	教育改革・企画課主査	石　丸　一　輝

2　傍聴人　　3　名

開会・点呼

（松田委員長）

それでは、委員の出席確認をいたします。

本日は、全委員が出席です。

ただいまから平成２６年度 第１９回教育委員会会議を開きます。

署名委員指名

（松田委員長）

本日の会議録の署名委員でございますが、高橋委員にお願いしたいと思います。

会期の決定

（松田委員長）

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりであります。

会議の終了は１５時００分を予定しています。

よろしくお願いします。

議　　事

（松田委員長）

はじめに、会議は原則として公開することとなっておりますが、会議を公開しないことについてお諮りします。

第２号議案、第３号議案及び協議については、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１３条第６項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

公開しないことに賛成の委員は挙手をお願いします。

（採　決）

それでは、第２号議案、第３号議案及び協議については、非公開といたします。
本日の議事進行は、はじめに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行います。

【議　案】

第１号議案　大分県立芸術会館管理規則等の廃止について

（松田委員長）
それでは、第１号議案「大分県立芸術会館管理規則等の廃止について」提案を求めます。

（野中教育長）
第１号議案「大分県立芸術会館管理規則等の廃止について」ご説明いたします。
平成２６年第４回定例県議会において、大分県立芸術会館の設置及び管理に関する条例等の廃止議案が議決され、平成２７年３月３１日に芸術会館が廃止されることとなりました。
これに伴い、大分県立芸術会館管理規則、大分県立芸術会館協議会規則及び大分県立芸術会館利用規則の廃止を行うものです。
なお、施行期日は、条例の施行日に合わせ、平成２７年４月１日としております。
ご審議の程、よろしくお願いいたします。

（松田委員長）
ただ今、提案のありました議案について、審議を行います。質疑・意見等のある方はお願いします。

（林委員）
これまで芸術会館のホールを利用されていた方々は、新しい施設へ移行できたのでしょうか。

（山口文化課長）

芸術会館のホール廃止に伴い、それまで利用されていた方々が大分県立総合文化センターを利用しやすいように、料金の特例措置を設けました。また、大分市のホルトホールや豊後大野市のエイトピアおおの等、新しい施設の整備もあり、その後、ご意見等はいただいていません。

（松田委員長）
他に、ご意見等はございませんか。

（松田委員長）
それでは、ただ今、提案のありました第１号議案の承認について、お諮りいたします。第１号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

（採　決）

（松田委員長）
第１号議案については、提案どおり承認します。

【報　告】

①大分上野丘高校スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）の取組について

（松田委員長）
それでは、報告第１号「大分上野丘高校スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）の取組について」報告をしてください。

（髙畑高校教育課長）
大分上野丘高校で行われているスーパーグローバルハイスクールの取組について、上野丘高校から教頭と担当の教諭から、ご報告いたします。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）
本校で行っているＳＧＨの取組について、ご報告いたします。
本校では、１学年３２０名がＳＧＨの取組を行っています。取組のひとつに、ショートレポートの作成というものがあります。レポート作成の過程で、立命館アジア太平洋大学や地元のグローバル企業と連携し、また、海外での研修をとおしてグローバルな視点を培っていく取組を１年生から行っています。
次年度以降については、３２０名の中からＳＧＨのコースを選択した

者は、２年次は週３単位時間、３年次は週１単位時間、この２年間を通してロングレポートを作成します。それぞれの生徒が自らの課題を見つけ、グローバル事案について自分で調べ、提言まで行うロングレポートを作成するという３年間の流れを考えています。

２年次以降については、本校では海外での修学旅行を行っていますので、ここが１つのグローバル体験をする機会となります。また、同窓会が海外派遣事業を行っていますので、ここで選抜された生徒は海外での体験が可能となります。

本校での研究成果の測定・評価については、文部科学省に提出している目標設定シート、つまり、どのような数値目標を設けて取り組んでいくのか、ここでひとつ評価をされていくことになります。また、生徒にアンケート調査を行うなど、本校独自の評価も開発しています。これらを通じて、研究成果を測定していきたいと考えています。

校内には､生徒のためのディスカッションルームやＧラボと呼ばれる、情報端末をもちこんで検索が出来る部屋の整備、専用タブレットや専用プリンターの配備、ＳＧＨ関係の図書の購入、各教室への英字新聞の開架など、環境整備も行っています。また、英語版のＳＧＨホームページの開設も行いました。

では､具体的な取組について､担当の佐藤教諭からご説明いたします。

（佐藤大分上野丘高等学校教諭）

具体的な取り組みについて、ご説明いたします。

年度の前半部分では、公民科の内容を行っています。５月は地球温暖化、７月は人口問題、１０月は国際経済など座学を中心に行い、１０月以降はレポート作成が本格化します。およそ８人のグループを学年４０班に分けてレポートを作成します。レポートのテーマを大きく５つに分け、１つ目が世界の環境・資源・エネルギー問題、２つ目が国際経済、３つ目が国際政治、４つ目が異文化理解、５つ目が世界の福祉・医療問題となっています。生徒が興味・関心のあるテーマに分かれてレポートを作成し、最終的には２月６日にホルトホールにて代表班による英語の発表会を行う予定としています。

２年次には、週３単位時間、ＳＧＨコース選択希望者のみの実習となります。グループ別探求学習を継続して行いますが、１年次に比べると、少し長めの分量のレポート作成となります。２年次の４月に研究テーマの再設定を行い、およそ１年半をかけてロングレポートを作成します。

現在行っているショートレポートの作成について、もう少し詳しくご説明いたしますと、１年次におよそ８人でＡ４サイズ１０枚、全て英語で書くということを念頭に置いています。テーマの設定については、必ず日本、または大分の問題を世界と相互に結びつけながら設定することとしており、その後、研究仮説の設定、調査報告の作成、まとめ、そし

て、まとめの段階において提言を行うようにしています。
　次の大きな柱としまして、地元大分のグローバル企業との連携があります。これまで多くの企業から協力をいただき、本校で講演会を行うことができました。直近ではＪＲ九州、ツーリズム大分から、観光というテーマで１０月に行いました。
　もう１つの大きな柱は、別府市にある立命館アジア太平洋大学（ＡＰＵ）との連携です。４月、５月に是永学長をお招きし、「グローバル化する社会」というテーマで講演をしていただきました。また、職員研修の際には准教授の方に来ていただいたり、２月６日に予定しているホルトホールでの発表会においても、講評をいただくこととしています。
　そのＡＰＵと一番身近で、実際的に生徒が活動できるのが国際学生との交流です。

（ここから生徒の活動の様子を視聴しながら説明）

　これは、６月にマリンカルチャーセンターで行われた研修の様子です。参加しているのは、スリランカからの国際学生で、彼は、日本語はかなり流暢ですが、基本的に英語で会話するようにお願いしています。このときは、本校の生徒はどちらかというと受身の状態です。理解力はあるのですが、積極的にこちらから話しかけるといった様子は、６月の段階では、まだ見られません。
　これは、１０月に本校で行われた、ＡＰＵの国際学生との共同学習の場面です。理解しようとする姿勢とともに、いくつか質問を投げかけ、レポートの充実に積極的に努めている姿が見られます。徐々にではありますが、生徒の英語によるコミュニケーション能力に変容が見られるようになりました。
　昨年の１２月には、２泊３日の日程で東京に国内研修に行きました。研修先は５つで、ショートレポートのテーマに関連した企業や外務省などを訪問しました。
　これは、双日株式会社を訪問した際の様子です。生徒本人が自分のテーマに関する質問を外国人の担当者に英語でぶつけているところです。これは国際医療センターでの研修の様子です。生徒が、なぜ発展途上国において企業が浸透しないのかということについて、ディスカッションしている場面です。班内で生徒が自分の考えの発表などを行いました。このように１２月の研修も非常に充実したものになりました。
　次に、海外研修について、ご説明いたします。研修先としては、ベトナム、３月２２日から２６日まで４泊５日の日程で行いたいと考えています。２年次からＳＧＨコースを選択する者の中から３０名を募集して、１年次の課題研究を踏まえ、現地での交流活動等にあたる予定としています。ホーチミンを訪れ、双日、ＪＰＴ（日本資本の製紙会社）、地元

のレ・ホン・フォン高校との交流を考えています。この高校は英語のレベルが非常に高く、学習意欲の高い生徒がいますので、本校の生徒が大きな刺激を受けることができるのではないかと期待しています。ホーチミンの研修後、首都ハノイで大学生と交流をする予定です。

その他の取組としては、ハーバード大学との交流があります。昨年８月に３回行いました。将来的には、ハーバード大学の生徒に本校の生徒のロングレポートを見てもらおうと考えています。ハーバード大学の他にも、ポーランド大使もお見えになり、講演をしていただきました。様々なお客様が訪問されるたびに交流を行っています。つい最近では、中国から９名の高校生が来られました。

最後に、成果の発信・発表についてです。ショートレポートの中間発表会を１月１４日校内で行う予定です。５つのテーマそれぞれから最優秀班を決め、その班が代表として２月６日にホルトホールで発表会を行います。中間発表は日本語で、ホルトホールの成果発表会においては英語で、自分たちの研究成果を発表することとしています。

（生徒の活動を映像で紹介）

これは、クラス内での日本語発表の様子です。国際政治についての発表の準備をしているところです。この生徒は、原稿を準備してはいますが、手元を見ずに、自分の言葉で自分のクラスの生徒の前でプレゼンテーションの練習を行っています。聞き手の生徒は、この発表者の評価を行えるように発表シート等を持っています。

レポートの内容は、本校のホームページを通じて、代表班のレポートを世界に発信します。また、全ての班レポートを全て英文化し、冊子にして県内外の高校に送付したいと考えています。

以上でございます。

（松田委員長）

すばらしい取組を発表していただきました。ただいまの報告について、ご質問等あれば、お願いします。

（首藤職務代理者）

目標のところで、「論理的・批判的な思考力」が出ていましたが、「批判的な思考力」を目標とする理由は、何でしょうか。また、それを育成するために、具体的にどのような取組をしていくのでしょうか。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）

今ある課題に対して、新しい視点で見ていく、今あることをそのまま

受け取るのではなく、少し批判的に見ながら、その問題点を明らかにしていく、そういう力が必要とされていると考えました。

また、こういう力を育てるための工夫として、例えば、講演を聞きながら､質問を箇条書きで書き上げていくというようなことをしています。そういう中で、物事を少し疑って、客観的に見つめていくといった視点が育っていくのではないかと考えています。

（首藤職務代理者）

「批判的」というのは、自分自身の意見をもっていろんなことを考える、という意味ですね。

（岩崎委員）

ＳＧＨコースを２年、３年で履修するというお話がありましたが、具体的には普通コースとは、どのように違って、進路等でどのように分かれるのかといったことを教えてください。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）

大きくは変わりませんが、ＳＧＨコースに入ると、２年生では週３時間、３年生では週１時間、課題研究の時間があり、ロングレポートの作成を行います。それ以外のカリキュラムはすべて同じです。

（岩崎委員）

ＳＧＨコース以外の生徒は、その時間帯は何をしているのですか。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）

総合的な学習の時間等または英語の時間となります。ＳＧＨコースでは、それらの時間で課題研究に取り組んでいくことになります。

（岩崎委員）

ショートレポートやロングレポートを作成するということですが、英語でディベートをするような機会はないのでしょうか。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）

ディベートは設定していませんが、ＳＧＨに限らず、いろんな教科のなかでディスカッション型の授業を行っています。

（岩崎委員）

自分の意見を発表すると同時に、英語で意見のやり取りをすることも考えてはいかがでしょうか。ＡＰＵとの連携もあると思いますので、そういうことはできませんか。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）

１年次は、ＡＰＵの学生と会話できるほどのコミュニケーション能力はついていませんが、２年次のＳＧＨコースを選択した生徒たちでは可能になってくると思いますので､今後の課題としていきたいと思います。

（林委員）

上野丘高校の生徒で、世界のリーダーになりたいという人はどのくらいいますか。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）

４月行ったアンケートでは、割合は低かったのですが、東京での国内研修などを通じて、将来、自分はグローバルリーダーとして海外に出て働きたいというようなことを言う生徒が出始めていますので、年度末のアンケートでは、かなり増えているのではないかと思います。

（林委員）

ＡＰＵなどの外国の学生さんで、英語が上手で日本語もできる方はいると思いますが､英語が上手で日本の問題を研究しているような学生は、この取組に参加しているのでしょうか。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）

そういった方は参加していません。

（林委員）

大分あるいは日本の問題と世界の問題を比べるときに、上野丘高校の生徒が大分の問題をどれくらい理解しているのか、あるいは理解しようとしているのかという点に関して、日本の問題を研究している学生が参加するとよいのではないかと思いました。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）

参加していただいている地元企業との話の中では、今、このようなことが問題となっているというような話はあります。

（林委員）

地元企業について、小さいけれど、グローバルな世界的企業というのがあると思うのですが、そういった企業とのコンタクトはされていますか。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）

企業との連携はすでに行っていますし、将来的には人材バンクのような形で、生徒の課題に応じて、企業と話ができるように、これから資料等を集めていきたいと考えています。

（林委員）

レポートを各高校に配るとお聞きしましたが、大変いいことだと思います。上野丘高校以外の高校でも、１班くらいであれば、それぞれの高校で英語レポートは作れるのではないかと思いますので、それを競うようなコンペがあると、より一層すばらしい取組になるのではないかと感じました。上野丘高校が、そういった取組のリーダーになってほしいと思います。

（高橋委員）

大変すばらしい取組だと思います。単なるレポート作成に終わらせることなく、海外でフリーデスカッションして、自分の思いを伝えられるような英語を教えてほしいと思います。今、見せていただいた中では、ジェスチャーやボディランゲージが少なかったような気がしますので、海外では、そういうところも必要ではないかと思います。

（野中教育長）

１年生で行う世界の問題についてのレポート作成は、レベルが高い感じがしていますが、中学校段階での教育に対する要請みたいなものはありますか。もう少しこうなると、グローバルハイスクールがやりやすくなるといったことがあれば、教えてください。

また、上野丘高校のＳＧＨの取組によって、生徒たちが変わったというものが、この時点あれば、教えてください。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）

最初の質問について、今は、自分たちで課題を探すまで時間がかかっています。知識として持っていない部分が多いため、公民の先生方がいろいろ工夫しながら教材を与え、世界では今、こういうことが起こっているのだということを教えながら、課題を探していますので、新聞を読む習慣が中学校段階である程度出来ていると、どのような課題で取り組むかということが早い段階から出来るのではないかと思います。

２点目の生徒の変化については、ＡＰＵの学生と６月から交流していますが、ディスカッションをすること、物怖じせずに語っていくことが出来るようになったと思います。物怖じせずに、英語で何とか話しかけていこうとする、そういったディスカッションに対する姿勢は、明らかに４月の段階とは変わっていると感じています。

（松田委員長）

日本人は英語での会話が苦手だと言われることが多い中、自分の思いを英語での会話を通じて伝えるという取組は、非常にすばらしいと思います。世界を目指して頑張ろうという生徒が育つとよいですね。

（岩崎委員）

スーパーグローバルハイスクールとして先頭を走る上野丘高校に他の高校も続いてほしいと思っていますが、上野丘高校から働きかけをするような動きがありますか。

（渡辺大分上野丘高等学校教頭）

他の高校への広げ方として、コンソーシアムを形成し、上野丘高校の行事に参加できるようにしています。また、２月６日発表会については、県下すべてに案内をしております。

（髙畑高校教育課長）

成果の波及についてですが、教頭からありましたとおり、ＳＧＨコンソーシアムにおいて、上野丘高校を中核として県下の各学校を取り込みつつ、成果を波及していくといった取組を、来年度以降、本格的に立ち上げていきたいと考えています。

（松田委員長）

すばらしい取組の報告、ありがとうございました。

（松田委員長）

それでは、先に非公開と決定しました議事を行いますが、その前に、公開でその他、何かございませんか。

ないようですので、先に非公開と決定しました案件の議事を行います。関係課室長のみ在室とし、その他の課室長及び傍聴人は退出してください。

（関係課以外及び傍聴人退出）

【議　案】

第２号議案　大分県先哲叢書編さん審議会委員の委嘱等について

（松田委員長）
　それでは、第２号議案「大分県先哲叢書編さん審議会委員の委嘱等について」提案を求めます。

（説　明）

（松田委員長）
　ただ今、提案のありました議案について、審議を行います。質疑・意見等のある方はお願いします。

（質疑・意見等）

（松田委員長）
　それでは、ただ今、提案のありました第２号議案の承認について、お諮りいたします。第２号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

（採　決）

（松田委員長）
　第２号議案については、提案どおり承認します。

第３号議案　公立学校の管理職人事について

（松田委員長）
　それでは、第３号議案「公立学校の管理職人事について」提案を求めます。

（説　明）

（松田委員長）
　ただ今、提案のありました議案について、審議を行います。質疑・意見等のある方はお願いします。

（質疑・意見等）

（松田委員長）
　ただ今、提案のありました第３号議案の承認について、お諮りいたします。第３号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

（採　決）

（松田委員長）
第３号議案については、提案どおり承認します。

【協　議】

①栄養教諭選考試験の実施について

（松田委員長）
それでは、協議の①「栄養教諭選考試験の実施について」協議を行います。

（説　明）

（松田委員長）
何かご質問・ご意見等はございませんか。

（質疑・意見等）

（松田委員長）
協議の結果を踏まえて進めていただきたいと思います。

（松田委員長）
最後にこの際、何かありましたら、お願いします。
ないようですので、これで平成２６年度第１９回教育委員会会議を閉会します。

お疲れ様でした。

平成26年度第19回大分県教育委員会会議次第

日時　平成２７年１月６日（火）
　　１３：３５～１５：００
場所　教育委員室

１　開　会

２　署名委員の指名

３　議　題
（１）議　案
　第１号議案　大分県立芸術会館管理規則等の廃止について
　第２号議案　大分県先哲叢書編さん審議会委員の委嘱等について
　第３号議案　公立学校の管理職人事について

（２）報　告
　①大分上野丘高校スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）の取組について

（３）協　議
　①栄養教諭選考試験の実施について

（４）その他

４　閉　会

第一号議案

大分県立芸術会館管理規則等の廃止について

大分県立芸術会館管理規則等を廃止する規則を次のように定める。

平成二十七年一月六日提出

大分県教育委員会教育長　野　中　信　孝

大分県立芸術会館管理規則等を廃止する規則

次に掲げる規則は、廃止する。

一　大分県立芸術会館管理規則（昭和五十二年大分県教育委員会規則第三号）

二　大分県立芸術会館協議会規則（昭和五十二年大分県教育委員会規則第四号）

三　大分県立芸術会館利用規則（昭和五十二年大分県教育委員会規則第十三号）

附　則

この規則は、平成二十七年四月一日から施行する。

提案理由

大分県立芸術会館の廃止に伴い、大分県立芸術会館管理規則等を廃止する必要があるので提案する。

大分県立芸術会館管理規則等の廃止について

１　廃止理由

平成２７年４月に県立美術館が開館することとなり、県立芸術会館が美術館としての使命を終えることから、平成２６年第４回定例会において、大分県立芸術会館の設置及び管理に関する条例の廃止についての議案が可決されたことに伴い、芸術会館関係の規則の廃止を行うもの

２　芸術会館関係規則の廃止

（１）大分県立芸術会館管理規則（昭和５２年大分県教育委員会規則第３号）
　　廃止する。

（２）大分県立芸術会館協議会規則（昭和５２年大分県教育委員会規則第４号）
　　廃止する。

（３）大分県立芸術会館利用規則（昭和５２年大分県教育委員会規則第１３号）
　　廃止する。

３　施行期日　　平成２７年４月１日

大分上野丘グローバル・リーダー育成プロジェクト

教育委員会報告

平成27年1月6日（火）

Ⅰ　研究開発の概要説明（ 5分）…… 教頭・渡辺

Ⅱ　課題研究の取組説明（15分）…… SGH推進部主任・佐藤

Ⅰ　研究開発の概要説明

Ⅰ-1.研究開発の目的と目標

○目的

多文化共生の視点をもって主体的に考え発信のできる、国際社会でリーダーとして活躍する資質を持ち自己を確立した生徒を育成する。

○目標

国際学生や地元企業との連携により、底の深い「課題研究」を進めること等を通じて、①論理的・批判的な思考力の育成、②英語で表現する力の向上、③国際的に活躍しようとする意欲や日本や大分県のことを学ぼうとする意欲の涵養を図り、全ての生徒が国際的に活躍する力と意欲を備えることを目指す。

Ⅰ-2.研究開発のテーマ

テーマ１　「課題研究」の指導方法・教材の開発及び実践

① 論理的思考力・批判力を高めるディスカッション型授業の推進

② 立命館アジア太平洋大学や地元企業との連携による「課題研究」の質的向上

③ 国内外でのフィールドワークによる課題の追究

テーマ２　国際的な視野を涵養するグローバルな体験の創出

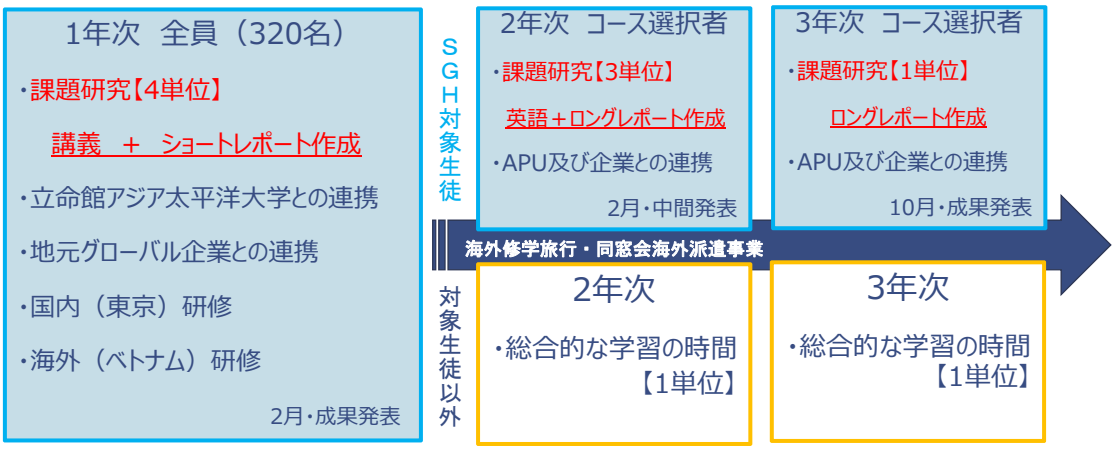
① 世界トップレベルの学生と交流する機会の創出

② グローバルなビジネスに触れる機会の創出

テーマ３　生徒のグローバルな成長を測るルーブリック評価の開発

① USGルーブリックの開発による「課題研究」の改善

Ⅰ-3.研究開発の流れ（3カ年）



Ⅰ-4.研究成果の測定・評価

1．目標設定シート(文部科学省提出)

2．生徒アンケート調査　→　04月と01月に実施

3．行動指標設定とルーブリックによるその評価

　→　生徒の行動指標10　教師の行動指標5を設定

4．学校設定教科「課題研究」の観点別評価による評点・評定化

Ⅰ-5.環境整備

①ディスカッションルーム、G-Labo、SGH事務室の整備

②タブレット20台、専用プリンター1台の配備

③SGH図書の購入（今年度100冊）

④各教室に「The Japan Times ST」（英字新聞社）を開架

⑤SGHのホームページ、英語版ホームページの開設

Ⅱ　課題研究の取組説明

Ⅱ-1.「課題研究」3年間の流れ

1年次【4単位】（320名全員対象）　公民科＋英語科＋情報科＋HR担任

◇前半(04月～09月)　講　義

「世界の今」グローバル社会を俯瞰する

04月　グローバル化する社会

05月　地球温暖化

06月　資源・エネルギー問題

07月　人口問題

09月　情報化社会

10月　国際経済

◇後半(10月～03月)　レポート作成

グループ(8人×40班)による探究活動

①世界の環境・資源・エネルギー問題

②国際経済

③国際政治

④異文化理解

⑤世界の福祉・医療問題

※ショートレポート発表(02月)

2年次 【3単位】 SGHコース選択者対象　　公民科＋英語科＋HR担任

◇グループ別探究学習　※ロングレポート中間発表(02月)

・研究テーマは２年次の4月に再設定

・２～３年次で継続して研究を深める

3年次 【1単位】 SGHコース選択者対象　　公民科＋英語科＋HR担任

◇グループ別探究学習　※ロングレポート最終発表(10月)

Ⅱ-2.ショートレポートの作成

◯1年次・班（8人）で作成 【Ａ４・10枚　英文】

①テーマの設定

・日本（大分）の問題と世界（国際機関）の問題を結びつける

・授業で扱った五つの領域から興味・関心のあるテーマを選ぶ

②仮説の設定

・研究を通して明らかになると思われる結論の仮説を立てる

③調査研究方法の策定

・比較研究の手法、緻密なフィールドワークを条件に調査研究の方法を考える

④まとめ

・新しく発見したことや気づいたことを提言としてまとめる

Ⅱ-3.地元グローバル企業との連携

連携内容

①「課題研究」で扱うテーマに関する講義

②レポート内容に関する質問等への応答

③レポート発表の際の講評

連携企業の講義内容

企業名	講義タイトル	講義日
ダイハツ九州	ダイハツ九州の環境保全活動の取組み	H26.06.25
新日鐵住金	文明を支え未来を拓く「鉄メタラジー」 ～省エネ・省資源への挑戦～	H26.07.17
大分銀行	世界と日本の人口問題と企業の国際化	H26.07.24
大分キヤノン	キヤノンの海外展開	H26.09.24
九州旅客鉄道	JR九州そして九州の“海外力”について	H26.10.28
ツーリズム おおいた	これからのツーリズムに必要な視点 ～Global　&　Local～	H26.10.28

Ⅱ-4.立命館アジア太平洋大学との連携

ＡＰＵ大学教員との連携

・キックオフ講演会の開催（05月22日）
「グローバル化する社会」
学　長　是永　駿　氏

・職員研修会の講師（10月24日）
「レポート・プレゼン指導の留意点」
准教授　立山　博邦　氏

・レポート発表会の講評（02月06日）

ＡＰＵ国際学生との連携

①研究チューターとして探究活動への助言

③レポート作成・プレゼン発表への助言

②英語でのディスカッション活動に参加

今年度の連携行事

①マリンカルチャー研修でのミニディスカッション（06月04日）

②ファイヤーアップ・プレゼンテーション　（10月15日）

③課題研究での協働学習【6回】
- 第1回　10月15日
- 第2回　10月29日
- 第3回　11月05日
- 第4回　12月03日
- 第5回　01月21日
- 第6回　01月28日

映像資料

Ⅱ-5.国内（東京）研修

○目的

探究テーマに深い関わりを持つ企業や国際機関等を訪問し、フィールドワークを行うことを通じて、研究を深めるとともに、社会のグローバル化を実感し世界に目を向ける姿勢を養う機会とする。

○期間
平成26年12月16日（火）～18日（木）

○方法
課題研究の5領域に沿って目的地を設定し、各班の代表40名が研修を組み立てる。各訪問先では、講義及びディスカッションや質疑応答を通して、各自の課題研究内容への考えを深めていく。

○国内（東京）研修訪問先

訪問先	課題研究領域	訪問日
双日	資源・環境・エネルギー	12月16日
国際医療研究センター	医療・福祉	12月17日
外務省	国際政治	12月17日
三井住友銀行	国際経済	12月18日
ＪＩＣＡ地球ひろば	異文化理解	12月18日

映像資料

Ⅱ-6.海外（ベトナム）研修

○目的

探究テーマに深い関わりを持つ国・地域を訪問しフィールドワークを行うことを通じて、研究を深めるとともに、社会のグローバル化を実感し世界に目を向ける姿勢を養う機会とする。

○期間

平成27年3月22日（日）～26日（木）４泊５日

○方法

2年次よりSGHコースを選択する者の中から30名を募り、1年次の課題研究を踏まえ、現地での交流活動、フィールドワーク等にあたる。

○海外（ベトナム）研修内容

訪問日	訪問先・研修内容
3月22日	ホーチミン市内研修
3月23日	双日・ロンドウック工業団地視察
3月23日	JPT工場見学
3月23日	レ・ホン・フォン高校との交流
3月24日	ハノイ市内研修
3月25日	ハノイ貿易大学校日本語学部とのフィールドワーク
3月25日	JICAベトナム事務所・JICAプロジェクトの視察

Ⅱ-7.その他の取り組み

○ハーバード大学

学生との交流

8月5日

「Cultural Exchange～世界を知ろう～」

8月8日・9日

「日本学講座Touch and Feel Japan」

①ポーランド大使講演会

（5月13日）

②ＭＩＴ神経回路遺伝学研究所
山本　純氏　講演会
（5月27日）

③インドネシア高校生との交流（6月17日）

④外務省高校講座（11月13日）

⑤中国高校生との交流（12月12日）

Ⅱ-8.成果の発表・発信

①ショートレポート中間発表会　平成27年01月14日(水)　校内

・各領域に分かれ、他の班のレポート発表を聴くことで、自分たちの課題研究を評価する。

・各領域の代表班を決定する。

②ショートレポート成果発表会　平成27年02月06日(金)　ホルトホール大分

・各領域の代表班の発表を聴くことで、優れた課題研究に触れ、自分たちの研究とのつながりを実感する。

・各領域の代表班を採点し、最も優れた課題研究を決定する。

③レポート内容の発信

・ＨＰを通じて代表班のレポート内容を世界に発信する。

・全班のレポートを冊子にして県内外の高校等に送付する。

ご静聴ありがとうございました。